## 【授業科目】カウンセリング　　Counseling

| 担　当　教　員 | 開講年次 | 選択必修 | 単位数 | 時間数 | 授業形態 | 実務経験 | オフィスアワー | 教職員への授業公開 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 衣笠 健作 | ２年次<br>前　期 | 選　択 | 1 | １５ | 講　義 | | | 可 |

| | |
|---|---|
| 授業概要（内容と進め方）及び課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法 | 生活場面でケアとして行うコミュニケーションには、人間理解を深めるための「聴き方」が重要になってくる。被援助者が伝わっていると実感し、援助者が非言語も含めた「伝える」を繰り返すことによって行われる「関わり」が基本となる。カウンセリング（話を聴く）の基本を学ぶことによって、延長線上にある心のケアにつながる関わり方を学習していきます。<br>毎回講義内に学びについてリアクションシート（講義のまとめ、感想、意見、質問など）を書き、提出してもらいます。<br>課題に対するフィードバック方法／リアクションシートに書かれたすべての疑問、質問には次回以降の講義で説明します。 |
| 授業の位置づけ | 本学のディプロマ・ポリシー④「幅広い視野でヘルスケアシステムにおける看護の専門性ならびに関連する多職種の機能・役割を理解し、連携して地域社会に貢献することができる。」の達成に寄与している。 |
| 到達目標（履修者が到達すべき目標） | ①　ケアにつながる「話を聴く」ための知識・技術を得ることが出来る。<br>②　講義で学習したことを実習や生活に活かし、人間理解を深めることができる。<br>③　自分の意見や感想を他者に伝わるように表現することができる。<br>④　「今、ここ」で起きている事象について客観的に捉えることができる。 |
| 時間外学習に必要な内容・時間 | ・講義で体験したことを言語化し、それを日常生活に取り入れて再体験すること（１２０分）<br>・日頃から自分の感情や物事の受け止め方などを客観的にみるよう意識すること（６０分）<br>・学校(日常)生活や将来など、困っていることを発表できるよう準備しておくこと（６０分）<br>※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（２単位１５回科目の場合：予習+復習４時間／1回）（１単位１５回科目の場合：予習+復習1時間／１回）（１単位８回科目の場合：予習+復習４時間／１回）を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。 |
| 授業計画 | 第１回　心理学から臨床心理学へ<br>第２回　カウンセリングとは－心理学的な傾聴について－<br>第３回　人と「かかわる」とは～関係づくり、コミュニケーションについて<br>第４回　ロールプレイ<br>（ペアを組み、カウンセリング的なコミュニケーションを体験する）<br>第５回　コミュニケーションから見えてくるものを分析する<br>第６回　集団でのカウンセリングとは<br>第７回　ロールプレイ<br>（グループでカウンセリング的なコミュニケーションを体験する）<br>第８回　全体のまとめ<br>全て衣笠 |
| 評価方法<br>評価基準 | 授業態度(ロールプレイへの状況、リアクションペーパー等）４０％　　試験６０％ |
| 教科書 | なし（授業内で必要に応じてプリント配布）　　参考書等：なし（配布資料に記載） |
| 学生への助言等 | ・心と身体は切り離せないところがあります。身体的なケアにともなう、日常的なコミュニケーションの中に、メンタルヘルスに重要な要素が詰まっています。心理学的知識、技法を学ぶことによって、心理的ケアを含んだ、トータル的なケアを意識する機会になればと思います。<br>・体験からの学びを重視していますので、ロールプレイには積極的に取り組んでください。<br>・授業中は他者に迷惑となる行為（私語や飲食、携帯電話の使用など）は禁止します。<br>（講義形態がオンライン授業などに変更があった場合は、授業計画も変更になる可能性があります。） |